

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 地域計画連合

②事業者情報

名称：	愛泉幼児園	種別：	保育所
代表者氏名：	深井 智朗	定員(利用人数)：	140 名
所在地：	〒 347-8510 埼玉県加須市土手2-15-57	TEL	0480-61-2627

③評価実施期間

令和 4年 11月 1日(契約日)～令和 5年 3月 31日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○キャリアアップ研修を基本に、内部研修の実施や職員育成にメンター制度を導入するなどの取り組みをして、保育の質の向上を目指している。

園の世代人材育成の取り組みとして、園外研修では、キャリアアップ研修を年2～3人は受講できるように計画を立て、参加している。内部研修では、虐待研修とともに、接遇研修を実施して、子どもへの言葉かけを具体的な場面を基に学び、業務の改善につなげたいと考えている。また、施設長による、保育所保育指針の改定のポイントを学んだり、年間保育計画を作成するうえで、キリスト教保育の主題と目標の説明を受けている。新人の育成と定着とともに、保育の質を上げることを目的に、次年度からメンター制度の導入を予定している。保育経験を重ねた人にメンター役を担ってもらうことを視野に入れ、他園の事例などを収集して対応を検討するなど、様々な方法での人材育成の取り組みを通して、保育の質を向上させたいと考えている。

○長年継承されてきた「食育」への丁寧な取り組みを実践している

創設者が大切にしてきた「食育」と「心の成長」という思いを継承し「食育」については食育年間計画を作成し、今も引き続き丁寧な取り組みが続けられている。地元の食材を取り入れ、行事や季節感等を大事にした献立表を作成したり、給食展示を行うことで保護者の給食への理解が深まり、利用者調査でも高い評価を得ている。さらに、アレルギー児に対しては、アレルギー別の献立表を作成し配布するなど、保護者に対してきめ細やかな配慮がなされている。食育の実践については、子どもたちが枝豆などの種まきから収穫、調理という経験を通し、食物や食事への関心を育てる取り組みがなされている。また、施設長がピザ窯を作ったことで、ピザづくりに挑戦するなど「食」への意識を育てることが様々な形で行われている。こうした食育活動から子どもたちも食事を楽しんでいる様子が伺えている。

○絵本の貸し出しを通して、選ぶ楽しみはもとより、親子でひと時のくつろぎの時間となっている玄関横のエントランスに絵本の貸し出しコーナーを設けて、常時200冊程の絵本を保管している。絵本係を決めて、子どもの年齢と発達、季節や行事等に合わせて入れ替えをしたり、配置の工夫をして子どもたちが絵本を選びやすいようにしている。食育に力を入れていることもあり、食べ物絵本も多く並べられており、登園時に親子で絵本を選んで借りて大事に保育室に持っていき姿や、降園時には親子と一緒に座って絵本を読んでいる姿が見られている。貸出ノートには多くの利用者名があり、絵本の貸し出しを通して、選ぶ楽しみや読んでもらう楽しみのみならず、親子が絵本を通してホッとするとするひと時を過ごしていることが窺え、親子のくつろぎの時間になっている。

○一人一人の子どもについて「成長の記録」のファイルを毎月作成し、保護者と子どもの育ちを共有して信頼関係を深めている

コロナ前には毎月実施していた月の保育計画の説明会が開催できなくなっている中で、子どもの育ちについて、毎月の成長の記録を書いて家庭に発信している。成長記録には、担任から子どもが頑張っている姿や育ちの様子等を記入して知らせ、保護者も子どもの成長や変化を感じていること等、家庭での様子を記入し、園と保護者とで子どもの成長を共有している。成長の記録は、一人一人のファイルのため、親子で内容を伝える会話になったり、毎月の写真も貼ってあることで、育ちの経過と成長が見える冊子となり、家庭との信頼関係を深める機会になっている。

◇特にコメントを要する点

○園の保育の基本になる全体的な計画について、保育所保育指針にある養護と教育を踏まえた0歳児の3つの視点と1歳児以上の5領域を基に、子どもの育ちを見通せる連続性に配慮した作成を期待したい。

現在は全体的な計画の作成を考えている状況にあり、現在は年間保育計画を活用している。今年度の年間目標は、「つながって～今、わたしを生きる～」として、また、保育目標を「よく祈り、よく遊び、よく食べる」として保護者にも掲示して知らせ、保育活動を実施している。園の理念と保育目標を踏まえ、園の全体像を包括的に網羅し、保育活動の基本になる全体的な計画の作成が急がれる。園の重点項目であるキリスト教保育の実質化のために、0歳児から5歳児の育ちの連続性が見える保育のねらいや活動内容になるよう作成をして、年間保育計画、月の保育計画、週の保育計画に反映して、保育活動に活かすことを期待したい。

○子どもに寄り添う保育を行っていくために、主体性を育む保育環境の工夫に期待したい。キリスト教保育を通し、一人一人の子どもに寄り添う保育を大切にしている。その中、経営層は、改善すべき保育環境については、子どもたちが何かを発見したり、考えたり、喜んだり、新しいルールを自ら体得することができるような園庭や保育室について再考する必要があると考えている。また、職員調査からは、遊具や玩具の環境、自然に触れた活動等とともに、園舎や園庭に対する様々な改善につながる意見が出されている。0歳児から2歳児においては、安全面を考慮しつつ、自ら探索活動が出来るような玩具の種類や配置など環境の工夫が望まれる。また、3歳以上児においては、収納ケースに入っている玩具を自分で自由に出来るようになってきているが、例えば、ままごと遊びや制作など子どもが自ら選びたくなるコーナーの設定や友達との関係性の中で遊びのイメージが広がっていく教材の準備などの環境の工夫が望まれる。職員の保育への意識は高く、子どもに寄り添う保育を進めている中で、様々な視点から保育環境について検討を重ねていくことを期待したい。

#### ⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

評価の全体的な計画、アンケートや実地調査や聞き取りなど、すべてにおいて、適切なアドバイスを交えて、充実したプログラムを提供していただいた。今後の保育所の運営のために大変有意義であった。

ただ、時間の管理に不満を覚える。園での実地調査に関しては、事前にタイムスケジュールが届けられ、自ら終了時間については厳守すると書いているにもかかわらず、終了時間は守られず、延長されたことは残念であり、予定の変更には、事前に園との合意確認など、負担に配慮した対応が必要であった。

また、評価調査者が、保育所保育指針についての特定の著者の著書を調査時間内に熱心に推薦するのは不適切な印象を与えることがあるので、慎重に対応すべきであると感じた。

#### ⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」とおり